

刊夕 日六月九



定額一冊全五冊... 廣告料五冊十二字... 日曜祭日の翌日休刊... 發行所 常磐毎日新聞社... 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

戊辰役の回顧

平陽 老人

一、西軍植田に到る

六月十八日仙臺兵一小隊平兵一小隊、林兵廿餘人を合し仁井田に到り、山に據り胸壁を設けて防備をなすや、西兵鮫川を渡りて植田に來り、銃を發して戦を挑む、東軍之に應戦したるが暫くして西軍兵を收む。越えて二十三日に到り、仙臺の中島十郎の手兵一小隊、純義隊々長小池周吾、隊兵四小隊を率ゐる柳倉より來り屬す、此の夜大風雨なりければ植田の西軍戦備を怠るの報あり、是に於て翌日拂曉兵を二分し、林兵、遊撃隊、平兵と一隊を成し、純義隊遊撃隊の一隊と共に之を攻撃せんとす、又西兵を八幡山に誘はんとして、純義隊半小隊をして之を守らしめ植田に入る、然るに西兵已に退き隻影を見ず、時に驛中に欵を西兵に通ずる者ありとて純義隊の兵士火を民家に縱ち、驛中に延焼す、時に西軍已に八幡山を砲撃しければ、林隊伊能矢柄、澤録三郎に謂ひて曰く西兵已に八幡山に向ふ早く之を援けざるべからずと、録三郎聽かず、矢柄其の能

爲すなきを見、悉く林兵を率ゐて退却す、録三郎馳せて之を止め、頻りに八幡山を援げんことを請ふ、是に於て林兵、遊撃隊と共に

ノート

コップは 麻の布巾で拭くときれいになる、コップについたよごれは鹽で磨くとよい。

八幡山に向ふ、行くこと僅に四五丁にして彈丸飛び來り、東軍大に亂れ幾何もなかり、敗兵悉く集る、林兵未だ戦はざるに早くも全軍の潰崩に逢へるを憤り、丘上に登り敵の到るを待つて戦はんとす、録三郎曰く地

【朝】すまし汁—小松菜 油揚げ
【晝】おろし煮—半熟卵 おろし煮
【晩】わん—なす ねぎみそ掛

の利を得ず、況んや寡兵をや、退却するの勝れるに若かずと、説くこと再三、乃ち仁井田峠下（平陽云ふ）本書に仁井田峠といへるは

新田山なるべし）に退く、此の時純義隊の敗兵八幡山より退却し來るに逢ふ、皆曰く、彈丸盡き加ふるに援なく遂に敗走せりと、是に於て林兵も亦仁井田に退き尋いで全軍を平城に收む。

九月七日、丙子、九紫赤口、収【一白】我望事他人の應援を得て吉利を得るの吉日戊辰と辰巳凶【二黒】金談縁談營業取引萬事進んで大利を得る日東西凶【三碧】外見吉内心に憂事あれば病難怪俄に注意未申丑寅凶【四綠】忍耐と謙遜を旨として進む時は遂に吉利を得る南北凶【五黄】營業上吉利を得る吉なるも水火の難に注意南北凶【六白】古き事件の整理が新企の念あるも意見一致を欠き凶を醸すことあり未申寅寅凶【七赤】婦女子に關して口舌を起す酒色絶して望事達せよ東西凶【八白】金談縁談共に他人の應援を得て利得あり戌亥と辰巳凶【九紫】運氣滯滞の日萬事控目か吉纏れ混雜を引起す勿れ南北凶

新刊紹介

▽會津戊辰戦史 男爵山川健次郎監修（菊版七百四十頁）寫眞及地圖入 定價參圓 發行所東京市淀橋區下落合二丁目飯沼方、會津

戊辰戦史編纂會）本書は仙臺戊辰史と相並んで頗る大なる者にして記述の内容は
一、大政奉還 二、伏見鳥羽の戦 三、江戸及近邦の形勢 四、總野の戦 五、東方の戦（上下）六、越後方面の戦 七、會津の形勢 八、會津城下の戦（一、二、三）九、南方の戦 十、戦後の處置
等にして年と共に増減に歸せんとしつゝありし事蹟も此の詳細なる記述により、すべて後世に傳はるを得べく、編纂としては洵に其の時宜に適したる者にして、維新史料としても亦貴重のものであるべし。（平陽）

外務社員採用

初任固定給 月三十圓
二十五才以上男女を問はず
履歴書携帶左記へ面談。毎日午後

平町田町一七
レストランサロン方
仁壽生命平駐在 吉田仁三郎
電話三五二番

品質第一 電話二六八番
平搾乳所
平町・九品寺前

咽喉專門
應入院 平町田町七〇番地
山内醫院
醫學士 山内亨吉
電話六九一

吸入用酸素純度99%
度量衡 モノサシ
ハカリ ス
体温器
寒、暖計

關内藥局
寫真材料一式販賣致シマス
玉炭 炭 平驛前
石炭 炭
コークス
阿部石炭商店
電話三七番

美味で！
評判の...
イワキ
サロシ
電 352

お醤油は... ヤマフル
醬油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町（電話營業部）醸造工場（七〇）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

國語平均六・二点

石城の壯丁學力成績

既報郡下七町二十七ヶ村の本年度壯丁二千二百一名の學力調査は去月十八日より平第一小學校講堂に於て執行され去る二日終了したが結果は不學三五、尋半途一九三、尋卒三九四、高卒七九六、實補前期修五八、同後期卒四二六、中在及び半途八六、中卒一五三、專門卒四七、大學卒一五で各科目成績は左の如く平均成績は國語六點二分算算術四點九分強公民科五點六分弱である

6	四五	二五
7	一	二五
8	五六	三三
9	一	三三
10	三六	一〇七

正木校長出福

校長正木貞二郎氏は昨日校務打合せの爲め平發午前九時にて出福した

衛生室落成

平第一小學校では過般來年度より新設する學校看護婦に備へる爲め二間四方の衛生室を建築中であつたが愈よ此の程出來上つたので近く寢台二脚及び診療機等を購入すると

磐崎武道試合

入賞者氏名

石城郡磐崎村武徳會では去る五日同村小學校に秋期總會を開き終つて弓道劍道の試合を行つたが入賞者左の如くである
△弓道 (一等)高橋國太郎 (二等)菅野保福(三等)酒井喜七(四等)遠藤彦三郎

曾我氏別宴

郡下學校長が

退職した曾我直治氏のため郡下小學校長會では來る十日午後五時より送別會を備す事になつたが場所は未定である

平一校に劍道部

愈々近く發會式

既報平第一小學校では兒童身心の鍛練と修養及び武士道の精神を涵養する爲め今學期より劍道部を新設すべく準備中の處愈々近く發會式を擧げる事になつたが指導日は毎週木曜日で學年は五年以上の希望兒童であるに因り指導員は井上、根本、水竹、横田の四訓導が任命された

警中X會

訓盲院に開く

警中X會展覽會は例年の如く來る十月十七日より二日間訓盲院に於て開催する事になつたが優秀なものは美友會賞及びX會賞等を授與すると

0	一五	三三	三三
1	一	一	六六
2	一六	三〇	六六
3	一	一〇	一〇
4	三三	三九	一三
5	一	一	一六

捌けぬ就職口

求人・職ともに減少

平職業紹介所で取扱つた去月中の紹介成績に依ると求人男が三十四名、女七名計四十一名、求職は男四十六名、女六名、計五十二名でうち就職した者は男二十二

滿鮮から一筆

釜山公會堂にて伊東

奉天で賑やかな支那町十間房と云ふ例に依つて人いされのする處だ、專變前迄は我守備兵さいそつちの方へは行けなかつたと云ふ、今圖書館となつて元學良の家も見えた、庭の中に東屋があつて

か本當かそこら新建築の時計のある所へ出られると云つて、正面奥の藏の中には作霖の死骸が未だに安置してあると云ふ、奉天驛も宏莊なもので玄關正面の樓上の時計の後は大砲が何時も學良の方に尺度を計つて構へてあつたと云ふ、

亦驛の地下室には大分軍器を

仕舞ひ込

んで居た等の風評もある、一日福島縣出身の軍人の多いと云ふ第四中隊を尋ねた將兵何れも悦んで居つたが都合で慰問の演藝が出來なかつたのは残念だつた、石城郡出身の兵士にはよく錦洲から奉天に來る途中で守備して居るのに會つた、植田の人、小名の人、草野の人等に遭つて話せば

涙を流し

て悦んでなつかしげだつた、我等はそれ見た丈けで異境で苦勞をして居る程度を押し量つて自分等も自づと涙ぐんだ、我等は奉天の郊外とも云ふ蘇家屯と云ふ所に十日計り滞在し其間本溪湖や撫順炭坑へも行つた、撫順は人も知る霧天堀りで名高い世界での炭礦だ、本溪湖は製鐵所のある處、こゝと鞍山とさへあれば日本の鐵は安心だと云ふ大連か

平各校が授業時間延長

平町各小學校では去る七月二十一日より暑中の爲め三十五分の短縮授業を行つてゐたが來る二十一日よりは従前通り八時授業四十五分授業にする

平町人事

回出生

△長橋町二四 遠藤林藏氏 六女和子
△鎌田町一八 渡邊重太郎 氏二男繁雄
△新川町七 野澤欽一郎氏 四男功

回婚

△鎌田町三一 佐藤昇氏 (四三)石城郡勿來町字淡田九〇與津はつ(二七)

中村齒科醫院

平町銀冶七

恐ろしい疫痢の流行期!!!

◎毎年六月始めより十月と申します
◎死亡率統計百人中六十五人以上として居ます
まづ豫防に經口免疫の
北里研究所製 疫痢内服ワクチン
價格 幼兒一人分三十錢 大人一人分五十錢
(文献進呈)

約特店 西村屋藥局

平町二丁目 電三

草汁

純郷土 文藝誌 原稿募集 短篇小説 短歌 詩 俳句 民謡等

發行所 草汁堂

千葉縣山武郡公平村求名二四八 福島縣平町胡摩澤一七 福島縣平支部 窪田志朗

草刈録を振つて

木賃宿に亂入

氣荒な弟召捕らる

平町鎌田町木賃宿三河屋方宿泊人日雇業佐藤静雄(二七)は昨五日前十時頃實家の神谷村に歸宅せる際同人の内縁の妻中倉ハル(三〇)の事から弟繁信と大口論の上格闘騒ぎを演じ仲裁が這入つて前記三河屋に引上げた處同日午後九時頃繁信の弟畑雄は家庭に問題を起させる様な女は殺して了ふと草刈鎌を持つて三河屋に荒れ込んだが同宿の者に取押へられて未遂に終り目下平署で關係者を呼出して取調中である

耕整横領

あす開廷

既報双葉郡富岡町毛茸耕地整理組合長佐藤徳右衛門(四七)が災害復舊工事に際し本縣より五六千圓を横領した詐欺事件の公判は病氣の爲め延期中であつたが明日午前九時より平支部に於て中島裁判長係り關口、香西兩判事陪席、清田檢事立會、門傳、安齊兩辯護士列席の下に開廷する事になつた

目覺ましい進境の

平町代表選手

待たれる青年競技

愈々来る十日午前八時より磐中グラウンドに於て開催される石城郡聯合青年團體育大會に平町青年團では必勝を期し競技部では第三小學校に於て同校石田訓導コーナの下に柔道部は磐中に於て青天目副團長及び橋本教諭コーナの下に猛練習をなしてゐるが昨年郡下の競技に於けるナンバーワンとして前途に多大の期待をかけられてゐた走巾跳の佐藤

兼介君は目下六米四五寸の好調を示し優勝確実と觀られ又其他の選手も一般に新人でありながら好成績を示して居る事として非常に期待されて居る

花取りに出て

石城郡内郷村字平太郎三九の六居住抗夫根本義雄(三七)は去る二日午前七時頃草花

採取に出掛けた儘行衛不明となつたので捜査中の處昨五日同村字鬼ヶ澤の貯水池に轉落溺死して居るのを発見された

内郷衛生會

石城郡内郷村衛生實行組合では来る十日午後一時より村役場

磐中水泳軍

關東北中等校大會に出場選手決定

磐中水泳部では来る二十四日水高プールに於て開催される關東北中等學校競泳大會に必勝を期し目下猛練習中であるが出場選手候補者は左の如くで正選手は二三日中に決定すると

- (自由型) 長野 木村 先崎 北野 庄司 水野
- 澁谷 志賀 佐藤 草野 酒井 中津
- (背泳) 佐藤 水野 澁谷 草野
- (平泳) 志賀 國井 赤塚 新妻

女と侮つて 旅金をゆする

太い與四郎捕る

石城郡小名濱町元町一二居住大工職丹野與四郎(二七)は昨五日後五時頃平町の盆踊に出掛る旅費に窮し同町沖見町七料理店金來亭事平金藤方に至り主人不在なるを奇貨として同人の内妻大塚モト(三〇)に金銭を強要中主人が歸宅し大格闘の上逮捕其の筋に突き出したので目下平署に押送取調中である

今晩の部
後六、〇〇 子供の時間
お話「維新の女傑野村望東尼」三松莊一
後六、二五 傳説と史蹟を
探ねて(二〇) 義經奇譚
紅燕情話 河合操石
後七、三〇 講演「經濟戰
國」法學博士津村秀松
後八、〇〇 浪花節「黒田騷動」中村伊勢夫

明日の部
前六、三〇 基督教講座
に於いて役員會を開き秋期衛生に關する打合せ會を行ふと

築港工事

植田と豊間に

縣では本年度匡救事業の一つとして海洋魚族保護繁殖の爲め築港工事を行ふ事になつたが本郡では植田町千五百圓、豊間磯八百二十圓、同村沼ノ内八百二十四圓等である

正副級長

けふ任命さる

平第二小學校では本日今學期間に於ける正副級長の任命式を行つたが左の如くである
(三ノ一) 大和田キヨ子
(三ノ二) 横山言三
(三ノ三) 秋山貞子(三ノ三) 長

池に墜ちて

石城郡小名濱町下神樂場水夫徳治二女須藤正子(三〇)は去る三日午前十一時頃姉トシ(三六)の手を離れ同宇内諏

「キリストの救濟觀」綱女學校長川口卯吉
前七、三〇 夏期ドイツ語講座(二十)三浦吉兵衛
前九、一〇 料理献立「おすし三角握りずし」佐藤つぎ
前一〇、三〇 家庭講座「結婚をする息子の母の夢」田中芳子
後〇、〇五 映畫物語「峠三里」巽狂兒
後一、〇〇 家庭講座「舞踊體操と童踊」石井漢
後五、三五 産業講座「東北北海道に於ける果樹栽培の要諦」北大助教授島善鄰

後六、〇〇 子供の時間
童謡 阿佐ヶ谷童謡樂園生徒 ビアノ伴奏員塚正治郎
後六、二五 傳説と史蹟を探ねて(二十一)「松前怪談門昌庵異聞」深瀬春一
後七、三〇 講演「宇宙線と不老長壽樂」藤田穆博士
後八、〇〇 講演「鳴物入り切られ與三郎」神田伯治
後八、三〇 ビアノ獨奏
獨唱村山久子 ビアノジエームス、ダン
後九、〇〇 琵琶「龍の口」松山錦章

川崎社長上京

川崎本社長は恩師巖谷小波先生の訃に接し葬儀參列の爲め本日午前九時一分平發にて上京した

平職業紹介所報告

- 回人を求める方
△小問使 十六才 尋卒
月五圓(平町某)
- △難夫 三十六才 中卒
給料面談(大分縣某)
- △女中 三十五才 尋卒
月十圓(平町某)
- △出前持 十八才 尋卒
給料面談(平町某)
- △回職を求める方
△難役婦 三十三才 尋卒
給料面談(飯野村某)
- △事務員 二十一才 佑賢
卒 給料面談(内郷村某)
- △難役夫 四十五才 尋五
修 給料面談(赤井村某)
- △土工夫 三十六才 無學
給料面談(平町某)

銘劍秘双録

【禁無断轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第三十三回 血に飢ゆる村正

御鑑定を願ひます

源十郎から、只正宗の刀を
持つて居るのが敵だとはか
りでは、どうも漠たるもの
外に何か證據はないかと聞
かれ、おみちが

み「母が聞きましましたには
立退く時に大勢の家内の者
に追はれまして、其中に一
人弓術心得の者があつて、

衆之進を討ち落さうとした
所が、狙ひが狂ひましたか
左の耳をかすりまして血の
垂る儘逃げたといふ事、
事に據つたら左の耳に少し
矢疵がありますかと存じま
す」

源「成程、正宗の刀と左
の耳に矢疵があるさうと私
も少し考へる事がある」

み「何でございます」

源「お前に話をすれば初
めてだが組頭の勝平太様、
さうさ三年ばかり跡だ、何
かの事に就て左の耳に疾が
あるから聞いた處が、ナニ
是は若い時分に賭事をして
其時に過つて射られたのだ
と斯う仰しやつた夫はマア
開逃がしにしたが此の正月
の事、春の飾りを拜見した
時には是を見て置け厄病も落
ちる、正眞の五郎正宗だと
仰しやつて」



源「サア驚いては往かん
大きな聲をするな、勝平太
様が自慢で見せたのが水を
割つたやうな銘刀、夫が正
宗で、左の耳に病がある
云ふとウム事に據つたらお
前のお父さんを暗打して、

うでございますか」
と二人の者は呆れ返つて
居ると、ドン／＼
平「寝たかコレ源十郎」
源「オ、御組頭でござい
ますか」
平「俺だ」
源「何方へお出でなすつ
た」
平「イヤ一寸城下へ參つ
て一盃やつて来た、百太郎
はどうした」
源「寝て了ひました」
平「ア然うか、是は明日
百太郎にやつてな呉れ、途
中で鼻緒を踏切つてな、源
十郎何か鼻緒にすがるや
らな物はないか」

源「へエ只今開けます」
勝平太は門に立つて居る
源十郎が締りを外して戸を
開ける中へ這入る勝平太
源「大層遅くまで御酒を召
上つておらしたやりましたな
平「イヤ朋友四五名に誘
はれて、例の梅屋へ參つて
なども大騒ぎ、拙者は面
到だから先へ戻つて来た、
是は餘り物だが、どうぞ目
か覺めたら百太郎にやつて
呉れ」
み「モウ毎度頂くばかり
でございます」
源「エーお頭、鼻緒をす
げませう」
平「氣の毒だな」
源「氣の毒も何もござい
ません、お酒を爛けませう
か」
平「イヤモウいかん、ど
うぞ水を一杯呉れ、ア、勝
平太の樂しみは、お前夫婦
が仲を好くして此の百太郎
の成人するの何より」
源「恐れ入りました、御
組頭の御陰で斯うやつて親
子三人楽しく月日を送つて
居ります」
平「イヤお互に今日泰平
の世の中ゆゑ安閑として居
るやうなもの、一朝事あ
る時は斯く申する勝平太な
どは殿様の御馬前に進んで
天晴なる働きをいたす心算
源十郎、其方なども其時に
は、妻子の顔を眺めて樂し
んで居る譯にも往かんぞ」
源「手前のやうな柔弱な
者でも、一朝事ある時には
戰場へ進んで、相當の御奉
公を致す心算で」

平「イヤ斯くいふ拙者な
どが、口では生意氣の事を
云ふやうだが、まだ戦ひの
味を知らん」
源「イヤ何でもございま
すか、御頭は戰場へお出で
になつた事はございませ
んか」
平「モウ拙者の世に出た
時分には、槍は袋太刀は鞘
徳川家康公天下一定なされ
て後の事めえ、謂は時節に
後れたのだな」
源「へエ左様でございま
すか、其のお耳の疵はどう
いふ譯で」
平「何日ぞや貴様に話し
たではないか、賭事をして
過つて斯ういふ疵を受けた
モウ一寸狙ひが違ふと、夫
こそ射殺される所、マア
逃れたのは運が宜いの
だ」
源「へエ然うでございま
しか危ない事でございま
したな」
み「爾卒なことを伺ふや
うでございませが夫の源十
郎も此間までは平足輕で居
りました所、御組頭の御陰
にて今日は足輕小頭になり
ましたに就ては四五日前に
腰の物を求めましてござい
ますが是は良いのでござい
ませうかどうか、御鑑定を
願ひたいもので」

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町
電一〇七

時代ハ有價證券デス

手輕ナ理想的六分五厘配當當社ノ
御利用ヲ乞フ。
簡單ニ金融ヲ致シマス。
各地出張所代理店募集。
高級社員招聘

帝都證券株式平支部

平町白銀町松崎ビル内
東京モリス會社トハ全然別會社デ關係有リマセン
誤解ノ無イ様願ヒマス。

男女安全豫防藥

新發賣 志のぶ錠

しのぶ錠は花柳病の豫防藥たるのみならず〇〇〇〇
の外コシケ、子宮、内膜炎、陰加答兒並に婦人〇部
の癢痒等の治療の目的に用ひられる事で即ち〇〇〇
豫防と治療の二重奏をなします

阿康藥舖

平古鍛冶町(電話四四番)
妊娠を望む方は使用すべからず

藤沼醫院

入院需應
平町紺屋町
電話五〇七番

内科、小兒科、花柳病科

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

平町田町 電話五一三番

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 トゲン科